

三水会会報

北里大学水産学部
同窓会
第 4 号

昭和57年 4月7日発行

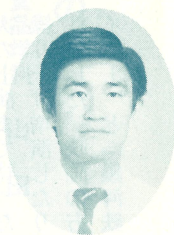
編集者 田代茂年

発行 北里大学水産学
部同窓会

(連絡先)

〒150 東京都渋谷区恵比寿3-
39-2 (長屋)

振替口座 第一勧業銀行大手町
支店 008-1182388



「十年を振りかえって」

三水会常任理事 其阿弥 喜嗣

我々の三水会も、今春七期生を迎えて、会員数も千人を超える大世帯になってまいりました。早いもので私共一期生が、わずか百数十名で、三陸の地へ来てから、十年の歳月が過ぎました。

その頃は、七期生の皆様には、想像もつかない事が、数多くありました。たとえば、浦浜から大学までは、バス一台がやっと通れる程の道で、車で走っても、三十分以上かかりました。一方大学では、第一校舎と、第二校舎の二階だけが、やっと使える状態で、現在の様な、りっぱな図書館も、体育館も、何にもありませんでした。クラブ活動は、どのクラブも山道を走り廻るだけ、体育館の代りに、第二校舎の三階を使って、練習したものです。その当時の逸話を少し御教えしましょう。

現在も漁火祭で、裸踊りが行なわれている様子を、写真で拝見しましたが、あの裸踊りの起りは、こうです。私の友人のT君とM君は、夜毎、崎浜の下宿の周辺を、当時流行してい

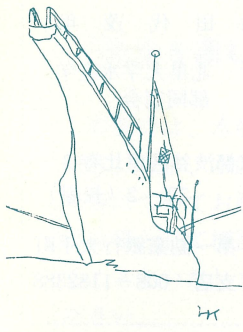
たストリーキングで、走り廻っていました。そしてその快感に酔いしれて、いつの日か、町の中で行なう機会を狙っていた訳です。たまたまその一人のT君が、漁火祭の実行委員となり、すぐにその願いを現実のものとしたのです。

もう一つ、大学の近くにあるS荘という下宿は、当時ユニークな人達がいる事で有名でした。当然そこで行なわれた出来事も、大変ユニークな物ばかりでした。ある日首崎の鳥居の下に、昼の内に置かれた品物を、深夜懐中電灯ももたず、一人で取って来るというゲームが、行なわれました。そして何んとU君という、勇氣ある人物は、それをなすとげ、多額の懸賞金を受け取ったという話です。大部センチメンタリズムに、ひたってしまいました。ここらで同窓会に話をもどします。

皆さん、三水会という名前の由来を御存知ですか。この名前は現在学長をなさっていらっしゃる松浦先生にあげていただいたいくつかの候補

の中から選ばせていただいたものですが、私なりにその由来を考えてみますと、第一に思い浮かぶのは、三陸にある水産学部の「会」で三水会です。第二に、同窓生・在校生・教職員、三つの団体が構成する、水産学部の「会」で三水会です。第三に、心・技・体、全てを水産に捧げる人々の会で、三水会です。まだまだ意味を考えるといろいろ考えられます。いづれにしても、深い意味を持った、良い名前ではありませんか。今春より仲間に加わる七期生の皆様にも、きつと気に入ってもらえる事と、思っています。

先にも述べましたが、我々の水産学部も、今年で十周年を迎えました。大学での記念式典を初め、同窓会でも、いくつかの催し物を、計画しています。詳しくは、同窓会事務局より、連絡があると思いますが、同窓会の皆様、これらの催しに参加して十周年を盛り立てようではありませんか。



「第9回を迎えた漁火祭」

漁火祭実行委員長 小 椋 俊 幸

こんにちは。私が第9回漁火祭の実行委員長を務めさせていただきました小椋です。

今回の漁火祭は学祭としては9回目ですが、我北里大学水産学部が創立して10周年という事なので今までの漁火祭とはひと味違ったものにして行こうと実行委員一同努力してきました。さて今回のテーマは『海は語れる』です。なぜこのようなテーマにしたかと言いますと、諸先輩方も一度は行かれたかと思えますあの首崎灯台、あそこに立って海を見てい

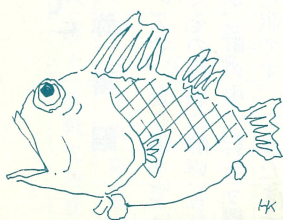


ると広大な海が、そしてはるか眼下に打ち寄せる白波が我々に何かを語りかけてくれます。そういう海の語りかけを大切にしたいと思いい今回このようなテーマにしました。

テーマ館もその内容に沿って今年度は潜水部・写真部・生物部・水研と4つのクラブが協力し、より内容を充実させて見ごたえのあるものとなりました。恒例の大漁踊りも例年よりも参加者は少なかったものの内容的には決して遜色のないものでした。模擬店も例年と趣を変え場所を第4校舎前と水槽横の駐車場に移し、なるべく人を一ヶ所に集めるよう努力しました。各クラブの展示の方も今まで以上の出来だと思えます。特に今回は人形劇部による人形劇が子供達にたいへんうけ、先生方も子供さんを連れて見にこられていましたがあまりの人数で会場に入りきれずに次の上演まで待ったり、上演予定を繰り上げ増演したりする光景も見られました。映画の方も『イージラーイダー』と『銀河鉄道999』の2本を

上映し期待通りの結果になりました。また地元の人達に人気のある演芸大会も学食に特設ステージを設け、盛大に行なわれました。一方体育館では軽音楽部によるコンサート、またグラウンドでは野球部によるバッティングセンターなどどこも沢山の人が見に来てくれて本当に良かったと思います。また当日十和田の人達の参加もあり漁火祭全体がひじょうに盛り上った感じで行なわれたのは私としてはたいへんうれしい事です。ただ残念な事は、当日地元の公民館の落成式があった為、地元の人々の参加が例年より少なかった事が残念です。

最後にこの漁火祭を開催するにあたりまして諸先輩方にはたいへんな御協力をいただき誠にありがとうございます。実行委員を代表しまして深くお礼を申し上げます。





環境生態学研究室の近況など

下村 敏 正

今冬は、雪らしい雪を見ない、異常な冬です。今出山も含めて、三陸界限は、秋の茶色っぽい景色がそのまま冬にずれ込んだ感じですが。気温は例年比低目の日がほとんどなので、暖冬ではありません。雪が降らないので、峠を越えて立根付近まで行く、変な匂いもするので、思わず口を掌をあてたくります。

このように埃っぽい大学への林道を歩きながら、第一回生の頃に比べて、自然の景観も変わったなあと思います。それは、杉林も雑木林も二米或いはそれ以上背が高くなったからです。朝夕眺めていた鬼間ヶ崎の赤鳥居も、杉林の陰になって見えなくなつたし、崎浜の旧港からは、鬼間ヶ崎へ新しい防波堤が一直線に延びて、海を断ち切っています。

年々歳々エネルギーに溢れた若人が社会に巣立ち、代つてまた、元気が一杯の新人が研究室に入って来ます。わが研究室に初め、四年次生の卒論入室者を迎えたのは、昭和五〇

年四月。以後毎年二五名を送り迎えています。月日の経つのは早いもの。五七年三月には第七回生を送り出すまでになりました。そして一方では、入室の決まった三年次生が、一月以来研究室に入り、四年次生と一諸に顕微鏡をのぞいたり、海洋観測や水質分析を行ったりしています。冬休みや春休みにも帰省せずに、卒論に備える三年次生が、毎年何人かいますが、このような気風は、わが研究室の伝統になつたようです。

さて卒論の事です。学問的には、プランクトン・水の化学・魚という三分野に、場所的には大船渡湾・越喜来湾を、次いで河川・田瀬湖を中心に置いていきます。しかし学問的にも場所的にも、できるだけ四年次生諸君の希望に添うようにしています。その理由は四年次生諸君の創意工夫を重んじ、また就職分野が多様化しつつある事への対応のためです。

従つて年によって、鹿児島湾・若狭湾・三河湾・箱根声の湖、或いは

東京六郷川のプランクトンや水質変化、その他離島の魚など、色々と面白い地域での研究もあり、大変愉快です。また特殊な海綿動物や余り見たこともないような二枚貝の研究をやつてみたいなど、様々の卒論希望の申出があつて、たじたじとなる場合もあります。

実験器材も格段に整備されて来ましたが、昭和五四年には、新進気鋭の早川康博講師が着任されるなど、物的、頭腦的の充実は見逃せません。その事は一見して、研究室に一種の重みがついて来た事を感じられると思います。研究室のロッカーに大切に保管されている、第一回生以来の卒論が、ずらりと並んでいるのも、その重みの一翼を担っているはずで

す。これら卒論はすべて、コピーにして後輩四年次生の研究の用に供されている訳ですが、毎年四年次生の口から出る言葉は、「先輩はよく頑張つたなあ。」という、感嘆の声です。しかしそれは、後輩だけの感嘆詞ではなく、先輩諸兄自身も、実社会での多忙に過ぎ行く日々のある時、ひよつと読み返した自己の卒論を見た時にも出す声ではないでしょうか。小生自身が、諸兄の苦心の結晶である膨大な卒論データを見る時に、そ

う感じののですから。一つ／＼のデータに、諸兄の真摯な顔が思い出されます。

現四年次生諸君の卒論発表会は、一月、後期定期終了直後に、本館二階のゼミ室で済ませました。翌日と翌々日は、諸君は綱張へスキーに行つて浩然の気を養つて来ました。目下原稿作りに大車輪の毎日です。

毎日夜遅くまで、しかし朗らかに、楽しく、議論し合つたり、タイプを打つたり、計算器を押ししたり、熊谷恵子嬢の許に、「大至急」にコピーを頼み込んだり、とに角若き溢れる今日このごろです。まぶしい位の熱気です。

海に出たり、舟の上でしぶきをかぶつたりする研究室のせい、この研究室には、女子学生は入つて来ない。というジンクスがあつたそうですが、それも第五回生が三名入室してジンクスが破れました。今年も四月からは、剣道部・林道部々員が一人ずつ入つて来ます。

卒論がバラエティに富むようになったのと同じく、研究室卒業生の社会活動の分野もどん／＼広がつて来ましたし、地理的にも、日本全国を被うようになり、海外で水産技術の指導に当たっている人や海外中心に飛

び回っている先輩も出て来るなど、誠に多士清々の感を禁じ得ません。一方では、先輩数ゼロという状態で就職先の開拓に苦勞した、第一回生のころと比べると、隔世の思いです。

ここ両三年来、環境調査の分野で活躍する先輩が増えて来たことは、時勢にも因るとは云え、卒業生諸兄の専門的学識や調査技術が世に認められて来た証拠と、欣快に堪えません。

もう立派なお父さんになった先輩も数多く知っていますが、新しい時代を担い行く姿に、精一杯の声援を送りたくあります。そして何年前かに、一諸に海浜にハイイクしたこと、五葉山の麓で、ニジマスを釣って手料理で（半煮えもありました）舌鼓をうったこと、八幡平の温泉別荘に合宿した時の事などが走馬灯のように憶い出されてなりません。

同じ研究室でも、年によつて、非常に活発な年、スキーなどのスポーツに打ち込む年、世話好きがいてパーティなどをする年、就職には余り関心がないように見える年……。それぞれの特徴があります。

しかし、育ちが良いこと、卒業には一生懸命になる姿勢、この二つは毎年ちつとも変わりません。むしろ年々強くなっているようです。これ

も先輩諸兄が形作っていった伝統の賜と思えます。

今春卒業の四年次生を初めとして、

食品化学研究室

卒業生の皆さんお元気ですか。

三陸は例年皆さんもご存知のように年内に厳しい寒さを迎え、一、二度雪を見るのですが、この冬も十二月に入るや否や異常な寒波に見舞われ大雪の洗礼を受けました。しかし、その後は年が明けても雪の少ない比較的暖かい日が続き、大変助かって

今後続く後輩のお引立ての程を願つてやみません。

佐藤 実助手

います。

本年度の食品化学研究室のメンバーは十七名の四年生に加え、修士課程大学院を卒業後、研究生として勉強している四回生の河合君と職員三名の計二十一名です。卒業を目前に控えた研究室は、就職活動で一時期閑散としたのが嘘のように、夜遅く迄灯が点り活動的な仕事ぶりです。

職員三名と申しましたが、まず職員の動向をお知らせします。昭和四十八年四月に学部長を兼務された土屋先生のもと、佐藤美和先生、佐藤実助手、及川さんの計四名のスタッフでスタートしました。五十四年三月に土屋先生がご退職され、後任には翌五十五年四月から佐藤美和先生が教授に昇格されました。また五十六年四月に筆者（佐藤実）も講師に昇格させて頂きました。なお及川さんは五十四年一月に結婚され佐藤さんと姓が改まり、現在職員三名とも



「佐藤」姓の文字通りの佐藤研究室になりました。

この間、卒業生数は着実に増え、この三月に計九十九名をかぞえるはずで大台にあと一步の所まで来ました。

研究室の研究方向は創設期の頃から大きな変化はなく、各年毎にデータを積み重ねそれぞれ大きな幹の枝葉を付けるべく細部を詰めつつある状況であります。

研究室の特筆すべきイベントとしては五十二年四月に土屋先生が永年水産学の発展に尽された功績で日本水産学会功績賞をお受けになりました。加えて、昨春は教育・研究上の功績から勲三等旭日中綬章を叙勲されました。誠に喜ばしい事で両回とも研究室の卒業生がお祝いのパーティーを開いてくれました。また佐藤美和先生は五十四年にカナダのモントリオールにあるマックギル大学において、海藻類の多糖研究の権威であるDr. Y. Ape教授のもとで研究されてこられました。これに関しては現在も研究室の主要な課題で継続研究中であります。その他私事で恐縮ですが、筆者は三陸に赴任してから手懸けた「軟体動物筋肉エキスの酸性イミノ酸に関する研究」をテーマと

して五十六年三月に東北大学で博士号を取得しました。

また、研究室の機器類などの研究環境もここ五年連続、文部省科学研究費補助を受けたこともありまして一段と充実し、今後研究活動も益々発展してゆくものと思います。

さて、当研究室では卒業生相互と職員との連絡を密にするためK.U.J. Amfootと称する研究室の同窓会を設けて、二つの活動を行なっております。一つはほぼ毎年一回春に例会と称して懇談の場を設けております。これには各卒業年次の幹事の方々による御尽力、毎回出席して下さる方々、また遠方より参加して下さる熱心な方もありまして楽しい和やかな雰囲気のもと、卒業生同士や職員との親睦を深めております。例会は従来東京だけで開催してまいりましたが、将来は東京を離れた地方で開き、各地で活躍している卒業生諸君と会合できればと考えております。なおこの例会に三水会より多大の御支援を頂いており、この紙面を借りて厚く御礼申し上げます。もう一つの活動は卒業生の住所録を兼ねた小冊子を発行しました。これは昨年やっと第一号を発行しただけですが、今後、仕事や人生等、種々の意見交換の場に

も発展させ、内容をより充実させてゆきたいと思えます。年々卒業生の数も増え全体を把握することが益々困難になるでしょうが、学生生活最後の一年を過ごした仲間の連絡はしっかり取れるようこの二つの活動は今後とも続けてゆきたいと思えます。

「新しい流通に従事して」 セブンイレブンジャパン勤務（一期生）

宮川 忠彦

私が現在勤務しております、㈱セブンイレブン・ジャパンは、昭和48年に設立致しました若い会社です。会社概要（昭和55年度実績）を簡単に御紹介させて頂きますと、まず資本金が一五億円、年間売上一五〇〇億円、経常利益五六億円、店数は、昭和55年11月に一〇〇〇店を越え、この二月末で一三〇〇店に達する見込みです。出店地域は、首都圏を中心に、北海道、福岡県、長野県、福島県、茨城県、静岡県、栃木県にあり、将来的には、日本全国に出店してゆく方針です。

お客様をはじめと致しまして、一般の方々以外と御存知ない点は、セブンイレブンミニスーパーと感違いなさっておられる方が多い点です。セブンイレブンは、コンビニエンス

これらの事が延いては三水会の発展の一助になれば幸いと考えます。間もなく第七回生も元気に巣立つてゆきますが、研究生の河合君も四月から出身地の中学校に赴任します。全員の今後の活躍をお祈りします。

ストアーという、日本では比較的、新しい業態に属する店です。簡単にその内容を説明致しますと①年中無休の長時間営業で②日常生活に必要な商品を③家から近い所にあつて提供させて頂いているお店、という事になると思えます。それでは、日常生活に必要な商品と申しますと、果してどの位あるのでしょうか？食品が中心となり、ざっと三〇〇〇〜四〇〇〇品目程あります。最近では、単に商品を売るだけではなく、映画券の販売、宅配便の実施等に取り組んでおります。多店舗展開のメリットを生かす事によりまだまだ多くの新規事業が考えられると思えます。

今年「キャンボール」というアメリカ映画が正月にかけて上映され、その中でセブンイレブンの店がロケ

に使用されました。御覧になった方も、いらつしやると思えますが、実際には、アメリカのセブン・イレブン本部である、サウスランド社が、この映画のスポンサーになり製作されました。現在、アメリカには七〇〇〇店を越えるセブン・イレブンがあり、イギリス・香港・オーストラリア等を含めると、八〇〇〇店以上、更に日本を含めると一〇〇〇〇店近い店数になります。この点につきましても、以外と御存知ない方がいらつしやるようです。セブン・イレブンの発祥の地、それはアメリカです。本家本元であるアメリカの、サウスランド社と、エリアサービス及びライセンス契約を締結し、日本でのセブンイレブンの多店舗展開を行なっているのが、㈱セブン・イレブン・ジャパンというわけです。

次に組織について簡単に説明させて頂きますと、我々の店舗展開は、フランチャイズチェーン方式を採用して多店舗化しております為に、本部と店（オーナー様）との密接なコミュニケーションが重要な要素となります。その為に、各店担当のフィールドカウンセラーがおり、全般的な経営相談、新しい情報の提供等を中心に、本部と店との太いパイプを築いてお

ります。また、多店舗展開の中で新規開拓の相手にリクルートフィールドカウンセラーがおり、立地・客層を分析し、加盟店の勧誘を業務としております。その他に、店の発注システムを運営フォローするシステム本部、店の設計・什器設備を担当する建築設備本部、商品の新規案内・P B商品の開発を担当する商品本部等の、スタッフ部門があります。私が所属しております商品本部には、大きく分けて、雑貨部門・加工食品部門・ファーストフード部門があります。それぞれの部には、更に専門的に商品分類が分けられ、相当のマーチャンダイザーがおります。マーチャンダイザーについて簡単に説明しますと、専門の商品に関して、原料から消費の終了まで責任をもって設計・統制する職務です。私の場合は、ファーストフード部門でサンドウィッチ・米飯を担当しているわけですが、まだまだマーチャンダイザーと呼ばれるには、努力が必要と実感しております。

誌面の都合上、詳細な会社、職場紹介はできませんでしたが、現在、北里大学の同窓生は私を含め三名が勤務しております。(一期生の吉川君、三期生の築地君) いづれも、中

途での入社ですが、皆それぞれ頑張っていておりますので、もし、詳

「北里魂で会社経営」

(株)水産生物資源研究所

代表取締役 山本史郎

新入生のみなさん、御入学おめでとうございます。早いもので、北里大学水産学部も今春7期生を送り出し、11期生を迎えました。みなさんはそれぞれの思いをもって、北里の水産を選ばれたことと思います。卒業したOBたちもそれぞれの希望を胸に北里の門をくぐり、そして社会へと出て行きました。彼等は北里大学水産学部の持つ若い力を、そのままエネルギーとし、諸々の分野で活躍しています。水産増養殖業をはじめ、食品製造・流通・医薬・教育・研究その他、文字通りありとあらゆる業界に進出しています。その中には一見、水産とはまるでかけ離れているような職業もあります。しかし、どのような職業でも、生物学的・水産学的思考・所見・方法といったところが貴重な意見となり、既製の社会に新しい風を吹かせることが少なくありません。事実、水産のOBを採用した会社が、後々も、是非北里生をもう一人、と乞う声が度々聞かれ

しい会社概要等が御希望であれば、各自に連絡をとってみて下さい。

ます。それらは単に大学で得た技術や専門知識に負うところのものに限らず、4年間の大学生活のうちに培われた『北里魂』といったものが、社会に評価されてのことだと思えます。『北里魂』とは、いったいどんなものか、と問われましても、実は私にもはっきりとは表現できないのですが、他人様から見ると、北里生は一味違うらしいのです。一風変わっているとも言われますが、

長々と来賓祝辞のような、固苦しいことを書きましたが、これらのことは私が北里の水産を卒業して会社を設立し、まがりなりにも経営者という立場に置かれた現在、強く感じていることなのです。

ここで少し会社の概要を御説明します。

弊社は、プランクトン・ベントス等の水産生物の調査および分析を主体業務とし、これらの業務を通じて水産生物資源に関する調査研究・海洋環境保全に関する調査研究などに貢献

することを目的として、昭和55年8月に発足いたしました。

わが国は、水産国ともいわれ漁場開発・養殖施設等の技術は世界的にみてもすぐれています。わが国の鉱工業の飛躍的發展とその操業量の増大に伴い、わが国をとりまく海域は工場排水・産業廃棄物等によって著しく汚染され、これらの海洋・湖沼・河川の汚染は由々しい問題となつてしまいました。

海洋汚染は、地球の酸素の70%以上を補給する海洋植物プランクトンの代謝をそこない、水産業のみならず、ひいては人間の生命・健康にも影響を及ぼすことが考えられます。狭い国土で産業密度の高いわが国においては水産生物資源の破壊を防ぎ、生活環境の保全に努めることが急務であると叫ばれています。

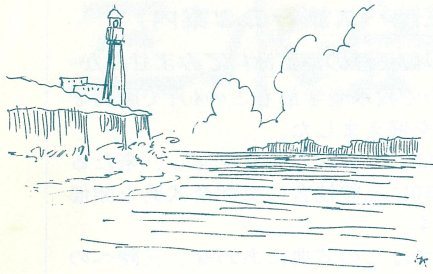
今後ますます顕在化すると考えられる汚染・公害問題に、水産生物資源に関与する立場から対処し、また、今後問題視されつつある陸水の生物分析をも手がけ調査技術の充実・分析能力の向上に努力し、もって水産業界の隆盛に寄与したいものと念願しております。

スタッフは総員4名、うち3名が北里大学水産学部の3期生です、あ

と1名は東京水産大学の卒業生で、平均年齢は27・5才、業界経験年数は平均して約3年ほどです。わずか4名で全ての範疇の水産生物資源の調査研究を行たうのはかなり厳しいことですが、先に述べましたように、水産に携さわる者としての使命感を持ち、『叡智と実践』をモットーに努力を重ねています。

この業界にも、多数の北里水産のOBが活躍しており、同じ大学を出た者同志ということで、相互に協力しあっています。

この場をお借りいたしました日頃お世話になってる皆様にお礼を申し上げますと共に、今後とも御指導、御鞭撻を賜りますようお願いいたします。



僕にとつての「路の会」

水産学部三年 食品学科 山田 樹

大学で何を学ぶか。これは常に問われてきた問題であり、その答えは仲々出しにくいものだと思います。でも、僕は路の会の活動を通して、この問題に一つの解答を得ました。

路の会は元来、旅を中心にしたいろいろな企画をしたり、またそのような企画に参加していこうというクラブです。昨年は、観光地である三陸町を美しくし、旅人にこのすばらしい景色を楽しんでもらえるようにとクリンキャンペーンを行ったり、とかく疎遠になりがちな相模原や白金の路の会との親睦を深めるための合宿に参加したり、岩手県内の大学の同系クラブとの交流組織である岩手ブロックの合宿やオープン行事に参加したりもしました。また、漁火祭では旅人ならだれでも興味を持つその地方の歴史から、三陸町のむかしについての展示もしました。そして、このような活動から僕らは、人の輪の大切さを学んだのです。三陸の町を美しくしようと集った学生の輪、クラブを盛り上げていこうとする部員の輪、同県内で同じよう

な志を持って活動を続ける学ぶ者としての輪、同じ三陸町に住み、何かを伝えていこうとする者の輪、これらは形は違っていても全て旅の意味と同じものであると思います。人の輪は必ず心に何かを残します。そして心に残ったものはいつか人生に役立つと信じます。

けれど、これら全てのこととは自らが動かなければならないことも確かです。自ら動けば必ず、それだけの苦勞を伴うものです。その苦勞を心に残る人の輪を作ること喜びに変えてくれるのが路の会だと思います。人の輪を広げること。これが僕の大学ですることの一つの解答なのです。

本会では水産学部学友会の発展のため、毎年漁火会、体育祭、クラブに対し助成金を交付していますが、55年度は「路の会」と「アメリカン・フットボール部」に対し交付いたしました。

編集後記

今年の水産学部開学十周年、三陸では、八月に記念式典を取り行なう予定です。

開学当時、教職員と一期生だけの寂しい学部でしたが、今では約四百名以上の学生が集う大学と成りました。この十年間、学部発展の為、本来の職務以外に、様々な問題と、取り組まれた教職員の方々にとっては、感慨無量でありましょう。また、常に、学部を暖かく見守り、支援下さった地元の方々も同感であると思います。

そして今、道は舗装され、施設や設備も整い、若き研究者たちが学究に打ち込む学舎は、相変らず、狸・狐・鹿・熊等が出没し、イワナ・ヤマメが溪流に踊る、そんなすばらしい自然に、埋もれる様に抱かれています。

以上



◇◇お知らせ◇◇

「先生を囲む会」開催のご案内

本会では、水産学部の先生においでいただき、大学、水産学部の現状、水産業の現状等についてお話しいただき、意見交換をする場として標記会を下記のとおり開催することといたしましたので、是非ご参加ください。

なお、終了後懇親会も行いますので、おさそい合せのうへご参加いただき、旧交をあたためていただきたいと思います。

記

1. 場所：昭和57年5月9日(日) 13:00~15:00
(懇親会 15:00~17:00)
2. 場所：北里本館(白金校舎内) 2階大会議室
3. 出席される先生：松浦先生、井田先生

追って第3回三水会総会は5月9日に開催いたしますが、本会に対するご意見、ご要望の向きは事前に各期代議員までご連絡ください。

《三陸バス旅行のご案内》

=久しぶりに三陸の海で泳いでみませんか=

早いもので我水産学部もこの4月で満10才の誕生日を迎えました。

大学では、この10周年を記念し、来たる8月1日(日)に三陸校舎にて記念式典を開催いたします。

三水会ではこの式典にあわせ、三陸へのバス旅行を下記のとおり企画しましたのでご家族、ご友人も含めふるってご参加ください。

記

1. 日程：昭和57年7月30日(金) PM10:00東京発
31日(土) 三陸着(泊)
8月1日(日) PM7:00 三陸発
2日(月) AM6:00 東京着
2. 費用：1人22,000円(人数により多少の変動あり)
(往復バス代、宿泊費、31日(朝、夕食)、1日朝食代を含む)
3. 申込方法：5月31日(月)までに、葉書に参加者氏名、性別、住所をご記入のうえ、長屋信博(渋谷区恵比寿3の39の2)までお申込みください。
申し込まれた方には詳しい内容をご連絡いたします。
4. 定員：50名(定員になり次オメ切ります。)

昭和55年度 水産学部 就職状況

学 科	水産増殖	水産食品	計
卒業生総数	99名	71名	170名
状 況	就職希望者数	82名	148名
	就職決定者数	82名	148名
	就職率	100%	100%
就職先内訳	規模別		
	大企業	26.8%	37.9%
	中企業	29.3%	39.4%
	小企業	30.5%	12.2%
	国・地方公務	8.6%	4.5%
教育関係	教育関係	2.4%	1.5%
	各種団体	2.4%	4.5%
進学・その他	大学院	1名	2名
	自家営業	9名	11名
	不詳	3名	3名
	無業	4名	4名
	その他		1名
求人	求人件数	330件	
	求人延人数	529名	
就職先所在地	京浜地区	48.9%	10.6%
	東海地区	4.9%	54.5%
	阪神地区	9.7%	6.1%
	東北地区	12.1%	4.5%
	その他	24.3%	24.3%

＝水産学部十年誌の申込受付について＝

10周年を記念し水産学部より刊行される十年誌を卒業生については送料のみでおわけする旨、お話しがありました。ご希望の方は4月末日までに300円分の切手を同封のうえ、長屋信博までお申込みください。

主要就職先

- (株)西友ストア
- 山崎製パン(株)
- 沿岸調査開発(株)
- 大栄太源(株)
- 岩手缶詰(株)
- 大都魚類(株)
- サミットストア(株)
- 東洋冷蔵(株)
- MBC養殖(株)
- ダイワ精工(株)
- 東海澱粉(株)
- 日水製薬(株)
- エバラ食品工業(株)
- 味の素(株)
- ヤヨイ食品(株)
- (株)ダイエー
- 大洋漁業(株)
- プリマハム(株)
- 日本配合飼料(株)
- (株)京樽
- カルビー(株)
- 国際缶詰(株) 等
- その他 団体・公務員 等